



起業までの道のりで苦労したことはありますか。

起業を決意したその矢先、母が脳出血で倒れ、自宅で介護をする生活が始まりました。24時間体制で介護をするため、それまで勤めていた職場を退職することになりましたが、そのタイミングで目にしたのが、利根町が主催する「とねまち起業塾」の募集でした。「今しかない」そう思い、とねまち起業塾に参加し、事業計画の立て方や経営の基礎を学びながら、資格取得や融資を受けるための準備を進めました。

母の介護と起業の準備を両立しながら、物件探しを進める毎日は大変ながらも楽しく、起業塾で学んだことは、自分

の考えを整理し、一歩ずつ夢を形にしていくための大きな支えになりました。

そして「今の自分にできることは何だろう」と何度も自分に問い掛けながらたどり着いた答えが、精神科特化型訪問看護ステーションという形でした。

振り返ると、母の介護、とねまち起業塾での学び、そして多くの人との出会い、その一つ一つが今の自分につながっていると感じています。

精神科特化型訪問看護とはどんな仕事ですか。

「精神科特化型訪問看護」は、あまり聞き慣れない方が多いかもしれません。

精神科特化型訪問看護とは、うつ病や認知症など、心の不調を抱える方が住み慣れた自宅で安心して暮らし続けられるよう、看護師が利用者の自宅を訪問し、一人ひとりに合わせた支援を行うサービスです。

病院は病気を治療する場所ですが、訪問看護は利用者さんが生活している場所へ伺います。病気だけを見るのではなく、その人の暮らし全体を見ることが、私たちの仕事なんです。

服薬の確認や血圧・体温などの健康チェックはもちろん、ゆつくり話をしたり、一緒に散歩へ出掛けたり、利用者さんの不安や孤独感を和らげたり、地域や人とのつながりを取り戻すための一歩を後押

しすることもあります。

私たちが利用者さんやご家族の方にお伝えしている大切な言葉があります。それは「こたえはひとつではありません。間違えても、失敗しても大丈夫。いつでも、何でもやり直せる。壁にぶつかったら、立ち止まるもよし、引き返すもよし、別の道を行くもよし、やめてもよし。」という言葉です。

利用者さんにごに必要な支援は違います。だからこそ、その人のペースを大切にしながら、一緒に「その人らしい暮らし」を考えています。

これからの目標や展望を教えてください。

現在は町外からの依頼も多く、毎日のように県内各地を訪問しています。



会話を重ねて信頼関係を築いていきます

一方で、事業所のある利根町でこのサービスを利用している方は、まだ多くありません。

心の不調は決して特別なことではありません。誰にでも起こり得ることです。

「眠れない」「気分が落ち込む」「誰かに話を聞いてほしい」そんなとき、一人で抱え込まず相談していただけたらうれしいです。「少し話を聞いてほしい」という気持ちだけでも大丈夫です。

私たちは「困ったときに思い出してもらえる存在」、「地域の中でそとと寄り添える存在」でありたいと思っています。

将来的には、開業前から目標としてきた精神科に特化したグループホームの開設を目指しています。

訪問看護とグループホームが連携することで、利用者さんもご家族も、もっと安心して生活できる環境をつくりたい。その夢は今も変わっていません。



「精神科特化型 Imagine 訪問看護ステーション」外観